

平成31年度 学校自己評価システムシート (県立児玉高等学校)

目指す学校像	「授業」を大切にし、人間力(①目標に向かって努力する力②人と上手に関わる力③感情をコントロールする力)を育成することを通して、地域社会へ自信と自己肯定感を持った人材を輩出する学校
--------	---

重点目標	1 「授業」を大切にする学校 2 人がたくさん集まる学校 3 人間力(非認知能力)を育成し、地域社会に貢献する生徒を輩出する学校
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	7名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価						
年度目標				年度評価(2月1日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	
1	義務教育段階から学校生活になじめない生徒や、日本語に不安を抱える生徒も存在する。学習習慣がついておらず、学習意欲も高いわけではなく、生徒間に基礎学力の差がみられる。 わかりやすい授業を実践し、生徒の学習意欲を向上させ、学力を身に付けさせる。 また、生徒に自信や達成感を育み、学習内容を確実に定着させることが課題である。	学習意欲の向上と基礎学力の定着。	①各教科による「ALタイム」導入等、授業の工夫・改善(通年) ②管理職による授業観察(年2回) 教員相互による授業研究(通年) ③学習サポーターの活用や補習指導(通年) ④課題テスト(年3回)の実施 ⑤各種検定受験の積極的な働きかけ(通年) ⑥高校生自立支援事業を活用し、サポートステーション等の外部機関との連携(通年)	①1学年2学期末評定平均:3.0以上成績優良者と不良者の前年比10%向上、10%減少 ②生徒アンケート「わかりやすい授業」肯定70%以上 ③学習サポーターの活用日数と生徒アンケート「補習体制の充実」肯定80%以上 ④課題テストの平均点向上 ⑤各種検定試験の受験者数の動向 ⑥自立支援事業の円滑な計画と実施 ⑦中途退学者の減少(前年度比10%減)	①評定平均3.19(3.17)成績優良者6.2%(9.2%)不良者34.0%(43.9%)②「わかりやすい授業」肯定54.2%(62.0%)③学習サポーター活用日数80日「補習体制の充実」肯定58.6%(69.7%)④課題テスト1年:国54.8数42.8英43.4/2年:国56.5数36.7英21.8/3年:国60.0数43.2英31.5⑤商業系検定試験延べ250名合格⑥深谷若者サポートステーションによる個人面談及びSSTの実施⑦中途退学者数前年度比63.2%減少(1/31現在)	B ・「基礎学力」の定着と「自己肯定感」を高める学習指導及び授業改善への取り組み ・中途退学者の減少に向けた取り組みの一つとして外部機関との連携強化 ・生徒の学習意欲を向上させるためや、達成感を得るための検定試験の効果的な実施
2	学校の様子が地域社会に十分に浸透していない現状があり、学校の取組を正確に理解してもらう必要がある。 教育活動の積極的な情報発信や地域社会との交流事業等を更に充実、継続、発展させて、開かれた学校づくりを充実させることが課題である。	学校と地域社会、関係機関や地元小中学校、保護者等との連携強化。	①HP更新、一斉配信メール活用や地元報道機関と連携した学校情報の積極的発信(通年) ②「児玉高校だより」の地域への回覧(年6回) ③地元小中学校との交流事業の推進(通年) ④地域活動への積極的な生徒派遣(通年) ⑤PTA・後援会・同窓会との連携(通年) ⑥学校説明会、進学相談会や中学校訪問の工夫・改善(年10回)	①HP更新回数及びアクセス数保護者アンケート「情報提供を積極的に行っている」肯定70%以上 ②回覧を年6回以上実施 ③地元小中学校との交流事業等を年8日間以上実施 ④地域活動への参加回数 ⑤PTA等の学校行事への参加回数 ⑥学校説明会等の参加者数400名以上	①HP162回更新及び1875538アクセス達成「情報提供を積極的に行っている」肯定53.6%(51.3%)②児玉高校だより6、7、10、10月号の4回を回覧③地元小学校との交流事業等未実施④本市市民大学講座参加⑤バスケット販売、文化祭、校門指導に参加⑥学校説明会参加者数235名(326名)	B ・家庭、地域へ教育活動の効果的な情報発信 ・地域社会における生徒の校外活動の推進 ・小、中学校との教育活動を通しての連携 ・生徒募集に係る効果的な学校説明会等の企画、運営
3	粘り強く取り組んでいる生徒指導に効果が現れている。 卒業後の進路に関心の高い生徒が大多数であり、生徒の主体的な進路選択への支援が必要である。 学校行事や部活動を充実させて学校全体を活性化し、社会の一員として自己実現を図ることのできる生徒の育成が必要である。 キャリア教育や段階的な進路指導を実施して、生徒の自己理解を深め進路を選択決定させることが課題である。	学校生活の充実と規範意識の向上。 進路希望の実現。	①学年集会(毎月)、全校集会(定期的)の実施 ②整容指導の徹底(通年) ③定期的な登校・下校指導、遅刻指導や校内巡視の実施(通年) ④生徒会による学校行事の活性化(通年) ⑤部活動の活性化(通年) ①進路指導部と学年との連携(通年) 進路指導のしおり「メゾ」の活用(通年) ②進路行事の計画的実施(通年) ③就職支援アドバイザーの活用(通年) ④ハローワーク等の外部機関との連携(通年) ⑤高大連携事業の積極的活用(通年) ⑥一般常識テストの実施(年2回)	①学年集会、全校集会の実施回数 ②生徒アンケート「生徒指導が積極的」肯定90%以上 ③遅刻回数(1・2学期)の昨年度比5%減少 ④生徒アンケート「学校行事が充実」肯定80%以上 ⑤部活動参加者数及び大会等の成果 ①生徒・保護者アンケート「進路指導はきめ細やか」肯定70%以上 ②進路行事の計画的遂行 ③就職支援アドバイザーの活用日数 ④学校を通しての就職希望者の就職率 ⑤高大連携事業の実施回数 ⑥一般常識テストの平均点向上	①学年集会毎月実施、全校集会1、2学期に各1回実施②「生徒指導が積極的」肯定79.3%(81.7%)③遅刻回数昨年度比5.5%減④「学校行事が充実」肯定55.0%(64.3%)⑤部活動加入者数171名57.4%(5/1現在)女子柔道部関東大会・全国大会出場、陸上競技部関東大会・全国大会出場 ①「進路指導はきめ細やか」肯定46.6%(生徒)52.0%(保護者)②進路行事計画完全実施③就職支援アドバイザー活用日数15日④就職希望者46名/44名が決定⑤高大連携回数1回(PTA講演会)⑥一般常識テスト1年55.0(58.6)2年50.8(58.0)3年42.6(41.6)	A ・交通安全、自転車等の運転マナー等の規範意識の醸成 ・整容指導、服装指導、遅刻指導等を含む生徒指導全般の指導の徹底 ・教育相談体制の整備及び生徒支援の推進 ・部活動の活性化 ・系統的、組織的な進路指導、キャリア教育の推進 B ・進路実現を図るための生徒の自己理解、自己探求の進化 ・進学希望者、就職希望者など分野別の進路指導体制の充実

学校関係者評価
実施日 令和2年2月7日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力向上のため、粘り強く指導してもらいたい。学習サポーターの活用、内容の充実を図ってほしい。 ・検定試験の実施は、生徒のレベルアップにつながる。 ・学習意欲の向上と基礎学力の定着に粘り強く取り組まれていることがわかります。少数者による授業や補習指導、学習サポーターの活用等、有効だと思います。 ・取り組みの結果が見えてくるまで、とても時間がかかることだと思いますが、粘り強く進めていくことが大切に思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の良いところを地域に発信するには何か必要か、地域のイベントに積極的に参加してほしい。 ・学校説明会参加者の減少は残念である。地元小中学校との交流を図り、変化を作り出してほしい。 ・児玉高校のビジョンをしっかりと描き、生徒・保護者・教員の意識のズレを縮めてもらいたい。 ・児玉高校といえば「〇〇」というように何かひとつ特色となるものがあるとよいと思います。何か中高で連携できるものもあるとよいと考えます。
<ul style="list-style-type: none"> ・体育コースのさらなる充実、部活動の活躍は素晴らしいので普通科の生徒にも部活動に参加するようになってほしい。 ・時間を守ること、服装等、集会を通して指導され結果につながられていることがわかりました。基本的な生活習慣の指導は進路指導、キャリア教育にもつながる大切なことと考えます。 ・目標に向かっていて、とても良いと思いました。